

研究主題

言語活動を大切にした授業の研究  
～学び会う・聴き合う関係を土台にして～

研究年度

3年度

1 研究の方法

一昨年度の取り組みから伏見中学校の課題（図1参照）と学力向上モデル（図2参照）が明らかになった。

伏見中の課題

1. 自分に自信がもてない
2. お互いに高めあう意識が低い
3. 関わり・コミュニケーションが苦手
4. 自尊感情
5. 家庭学習・家庭生活

図1

伏見中の学力向上モデル

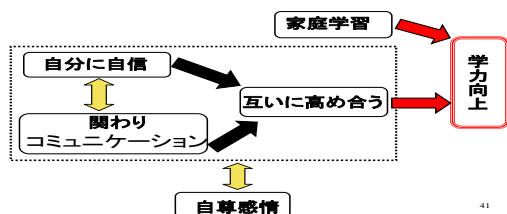


図2

伏見中の5つの課題の克服と学力の向上をめざして、一斉授業の中に4人を基本とする学習班によるグループ学習を取り入れた研究をしてきた。学び合いを効果的に進めるために、単元における時期、1時間の中の時間帯、学び合いのルール、教師の効果的な働きかけ、全教科の「課題の設定」などの研究を積み上げてきた。

2 研究主題設定理由

昨年までの伏見中の研究主題は新学習指導要領とも関連がある。①「思考力・判断力・表現力」を養うために、学習班で考える時間をとり、考える習慣を身につけ、自分の考えを広め・深める。②学習班の話し

合いやクラスの発表を通して発表・説明・討議・記録などの「言語活動」である。

しかしながら①家庭学習の弱さの克服を保護者との連携のもと一層推し進める。②全生徒が意義を感じる適切なジャンプ（チャレンジ）課題を全教師が研究を深め共有財産として蓄積していくことの2点が課題として残った。

本年度も、昨年度までの研究を継続・発展しつつ残った課題を克服しようと、研究主題を「言語活動を大切にした授業の研究～学び会う・聴き合う関係を土台にして～」とした。

3 具体的な研究内容

① 研修担当

教務部の中に研修担当を位置づけ、計画・調整・運営にあった。

② 年間3回の授業研究・学年協議

各学年1～2クラスのみを残し、グループ学習を取り入れた研究授業を行った後、学年ごとに研究協議を実施した。その間、部活動の巡回をPTA協力員制度による保護者ボランティアに協力していただいた。

③ 校内全体研修

平成20～22年度の学力向上実践推進事業の再確認や23年度から今年度までの研究内容と方法、各学年や教科の取組の分析を行った。

4 研究の成果

① 教科・総合・道徳

全教科の「課題の設定」を一覧表にし、教科や学年の垣根を越えて全教員が研究した。

校外学習の後、体験したことや学んだことを全学年とも壁新聞を作成し、廊下に掲

示し学び合わせた。

人権講演会や道徳の後には生徒に学んだことや感じたことを書かせた。それを学級通信や学年通信・学校ホームページに記載しフィードバックした。

## ② 行事

文化発表会では、各教科のレポートや作品を展示し全校生に見学させた。生徒は「教科の展示は、たくさん素晴らしいものがあった。『次に生かせる』と思った」「自分の作品が展示されるよう頑張ろうと思った」などの感想であった。学習への意欲喚起に結びついていると考えられた。

## ③ 研究授業・学年協議

研究授業・学年協議の内容は、「一人ではありきたりな考えしか出てこないが、学習班で考えることでより良いもの・興味深いものにしようとする粘り強い姿勢が見られ、お互いに高め合うことができた。生徒からも『グループ学習は楽しかった』という感想も多く聞かれた」「研究授業で普段はなかなかできない話し合いや考察活動を生徒にしっかりと取り組めさせることができた」「教師からの『なぜ?』という問いかけに対して今一度自分達の考えを見つめ直させることができた」「教科の違いはあっても、研究授業・学年協議を通して教師が研究することができた」など有意義な感想が多くみられた。



学び合いの授業の様子

## ④ 学年

1年生では、基本的な学習習慣を身につけさせる指導を重点に取り組んできた。また、グループ学習を取り入れた授業の研究を行い、意欲的に授業に参加する生徒を育てることを目標としてきた。

家庭学習の弱さが見えてきたため、2学期途中から全員対象の「復習ノート」と、希望者を対象に「放課後学習会」を実施した。学習に対する意識付けと家庭学習の習慣化、やればできるという自己肯定感を持

たせることが狙いである。

それぞれの取り組みの成果についてはすぐには現れるものではないが、じっくり取り組みを継続していきたい。

2年生では、基礎学力を培うため、朝学習の時間に数学の復習プリントに取り組んだ。授業においては、より効果的な学習を目標に、ITを利用した授業や班学習の研究も工夫して進めた。また、表現力等の力をつけるため、文化遺産の体験学習を、調べ学習や班での発表などを取り入れ進めた。家庭学習の不十分さが今後の課題である。

3年生では、2年次に行った修学旅行事前学習を踏まえ、修学旅行でのタクシー研修内容を話し合い、現地で学習を深め帰ってからグループで壁新聞作りをしてまとめた。また、今年度も自発的な家庭学習や学習習慣を身につけさせるために、毎日宿題や予習以外に自分で課題を見つけてノートにまとめる（ホームワークノート）取り組みを継続して行った。終わりの会では、明日の授業での課題と忘れ物がないかを担任が細部にわたり指導した。

## ⑤ 学校評価

「学校生活は楽しく充実していますか。」という質問では、90%の生徒が楽しく充実していると答えています。しかし、まだ10%の生徒が楽しく充実していないと答えていることも事実であり、今後の課題としてしっかりと取り組んでいく必要がある。また、「授業は工夫されていてわかりやすい」という質問でも、81%と昨年よりも大幅に向上しており、さらに工夫した授業の展開を目ざして取り組んでいかなければならない。また、「予習や復習など家庭学習はしっかり取り組んでいる」という質問では、61%の生徒がしていると答えており、徐々にではあるが家庭学習が定着してきていると考えられる。

## 5 今後の課題

今年度は、特に「家庭学習の充実」を課題として各学年で取り組みを進めた。この結果、学習の振り返りも進み、基礎学力の定着がみられた。次年度は、この取り組みを継続しながら、平成27年度から完全実施される「小中一貫教育」を充実させるため、「9年間の学びをスムーズにつなげる」ための手立てを、小学校と共に「小中一貫実務者会議」や「作業部会」を通して連携を深める取り組みを推進したい。